



からしだね

2017年8・9月号
(530号)

キリストの受難 カトリック池田教会

共同宣教司牧：畠 基幸 神父・中村克徳 神父

住所：〒563-0041 池田市満寿美町9-26

TEL：072-751-2400 FAX：072-753-4624

URL(ホームページ)：<http://www.ne.jp/asahi/catholic/ikeda/church/index.htm>



白山高山植物園の花々

上左：ニコウキスゲ、 上右：ハクサンフウロ

下左：クルマユリ、 下右：ハクサンタイゲキ

本号の記事の主題など

畠 基幸神父による巻頭言2
「天から恵みの雨が降るとき」
十字架の聖パウロ松本神父帰天一周年ミサ...4
帰天一周年ミサに臨んで(寄稿2篇).....6
「ラウダート・シの読み合わせ会」がスタート...7
大腸ガンの手術を受けて(下)7

今月の表紙写真10
大人の日曜学校だより..... 10
俳句2首.....10
高齢者のつどい..... 11
教会カレンダーへの追加と変更11

巻頭言

天から恵みの雨が降るとき

畠 基幸 CP

7月15日土曜日、午後5時からの十字架のパウロ松本一宏神父帰天一周年の追悼ミサと追悼の祈りが行われ、たくさんの方や幼稚園の父兄が参列し、中高生たちや日曜学校の子供たちが勢ぞろいして侍者を務めてくれました。二人の中高生の代表(K君とM君)が在りし日の神父様との出会いを思い起こして感謝と惜別の思いを吐露し、子供たちは笛の合奏で追悼の思いを奏でました。神父様との別れはいまだに信じがたい、それが子供たちの思いで参列した大人も一つのこの心で結ばれました。

この日の追悼ミサでは、復活ローソクと遺影と遺骨を中央に飾り、挨拶と説教で松本一宏神父様の残された遺志を振り返ることにしました。原稿のないまま、アウトラインと資料だけを手にして話したので、その時の臨場感は思い出せませんが、松本神父様の池田教会で遺稿となった巻頭言や「からしだね」の記事から「神の国の奥義を悟った」神父様の生きたあかしを説教の中で語りました。

挨拶：「今年の7月12日夜中、松本神父さんは目を覚まして、急いでベッドから立ち上がり出かけようといわれました。そして立ち上がったその姿で絶命されたとのことです。幼稚園の皆さんのところへ、また教会の中高生のみなさんのところへ、しばらく離れて長く寝ていたのもう顔を出して挨拶しに行こうといわれたのではないのでしょうか。皆さんからたくさんのお見舞いの手紙を受け取っていました。いずれ元気になれば返事をしようと考えておられたようです。でもいまは病気の治療に専念して、できるだけ静かにして、病気と闘い、死に向う自分の命をキリストの命に重ね合わせて、慈しみ深い主、御父への感謝の祈りをささげて日々を過ごしておられたのです。ときどき夢の中でミサをささげていることが、寝ている神父さんの唇と手のしぐさの動きでわかったそうです。わたしたちにとって神父さんの突然の死は、信じがたいものでしたが、神父さんは静かにその宣告を受けとめ、嘆き悲しむことなく、病気に勇敢に立ち向かい、残されるものに与える衝撃を和らげることを願って病名を公表することを差し控えられました。ご自分のためにも、またわたしたちのためにも、一歩さがって全体を眺めることを望まれたのです。わたしたちのために祈ってくださった神父さんのために、わたしたちも神父さんの願いが天からの恵

みの雨を降らせ実りをもたらすように祈りをささげましょう。」

説教：(マタイによる福音書25章30～40節)

松本神父さんがわたしたちに残してくれたことは、たくさんあります。一つは、大きな笑顔です。聖堂の壁に松本神父さんのスナップ写真が飾られています。そのどれも、大きな口をあけて高らかに笑っています。どれもこれもです。笑っている顔だけを撮ったのかも知れませんが、それが魅力的だったからでしょう。思い出の一ページの中に、皆さんもその写真の中にいると思いますが、その松本神父さんのまなざしにたびたび出会ったことでしょう。そして皆さんの顔もそれにつられて喜んでいきます。松本神父さんは、ちよつと距離を置いて、でも、いつもともあることを心がけて、皆さんに微笑みかけていたようです。あの大きな目で。

松本神父さんが書いて残されたものには、「からしだね」に掲載された巻頭言があります。そして、たびたび出てくるテーマは、「より大きな視野で見る」、「いろいろの人々の視点から毎日の出来事、物事を見る」、「日常のちよつとした出来事の中に神さまの働きを見る」です。松本神父さんは、「見る」ということに注意を向けていて、日常の出来事、海外での修道会の会議の体験、神さまの心や思い、ご自身の生活の習慣や出来事の気づきなどを分かち合っていますし、また映画の鑑賞もいくつか紹介しています。巡礼中の創立者十字架の聖パウロからいただいた神秘体験、御受難会の使命、幼稚園の子供たち、読書体験で、シンプルな文章、短いエッセイの中に、一歩下がって大きな視野で見て考えた、一つの知恵が語られるのです。だから、読むと、すごく共感するし、すぐに実践できるような提案があるのです。

その中で、松本神父さんの人柄が溢れている話の一つは「どろんこ子豚」の話です。松本神父さんが、もっとも好きな絵本の一つです。子供のころから何度も読み直しいつも部屋においてある絵本です。2010年1月のからしだね447号に掲載された文章で、これは巻頭言ではなく、「教会の仕事をやってみる」という文章で、信者の皆さんが一人一役の奉仕を申し出る人がいないことを感じて、奉仕の心を提案された寄稿文です。どろんこ子豚がある日世話をしてくれる家のおばさんがきれいに

泥んこを片付けて掃除したのです。どろんこ子豚はどろんこのなかの居心地のよい場所が奪われて怒って家を出てしまいます。そしてたどり着いた都会で居心地のよい泥んこだと思って飛び込んだらそれが生コンクリートだったので出られなくなります。そこへ探し回っていたおばさんとおじさんが子豚を見つけて助けてくれる話です。たわいのない話なんです、ある司教様が温泉は神さまの愛の温かさでほっとして幸せを感じると話されたことに、温かさに包まれることに幼心にも憧れを感じたと松本神父さんは心情を吐露して、池田教会も、絵本の「どろんこ子豚」が味わったような居心地のよい場所になったらいいなど提案しています。

居心地のよい教会、そのために泥んこを世話して大きくする。ほっておいたら乾いてしまいますから、誰もが入れようような整備が必要だということです。松本神父さんは、この憧れを実現するために、信徒一人ひとりの役割を積極的にしていることを肯定すると同時に、いったい何ができるのか不安になっている人に対して、完全でなくてもよいし、どんな小さなことでもいいのだとご自身が納得し実践している方法を米国のミシガン州の司教様の言葉と祈りを借りて、小教区を居心地のよい場所にする提案をされました。

それは、ケン・ウンテナー司教(Kenneth Edward Untener, 1937～2004)の「実践的預言通信」の中から司教の祈りをわたしたちに紹介した文言です。

いつでも一歩さがって全体を眺めることは大切です。神の国は私たちの努力を越えているるばかりか、ヴィジョンをも超えています。私たちの成し遂げられることは、神の偉大な業のほんのわずかな部分です。完璧なことなどはできません。神の国はいつも私たちを遙かに超えているからです。

どのような言葉もすべてを言い表すことはできません。

どのような祈りも信仰を完全に表していません。

どのような罪の告白によっても完全にはなれません。

どのような司牧的な訪問も完全ではありません。

どのようなプログラムも教会の使命を成し遂げるわけではありません。

私たちは、さらに成長していく必要がある土台を据えます。私たちの与える酵母は、わたしたちの能

力をはるかに超えた効果を生み出します。すべてをすることはできません。それが分かれば、ある種の解放感を感じるでしょう。そして何かをすることを可能にします。しかもとても良くすることを。不完全かもしれませぬ。しかし、始まりであって、長い道のりの最初の一步です。あとの残りは、主の恵みが働くための機会となるでしょう。

結果はけっして見えないかもしれませぬ。しかし、それは建築家と働き手の違いです。

私たちは働き手であって建築家ではなく、司牧する者であって救い主ではありません。

松本神父さんの考え方の基盤、そして司牧の手本になった考え方だったように思います。そして、いつでも一歩さがって全体を眺めることは神父さんの人柄と生き方に通じるものがありましよう。「たくさんの方が心地よく身を浸すことのできるどろんことして私たちの共同体が成長できるよう、それぞれの賜物を差し出していきましょう」と私たちに呼びかけた神父さんは、本当に骨身惜しまず泥んこになっておられました。教区の健康診断も3年連続でパスして修道会と幼稚園のスケジュールで受診できませんでした。わたしも2年パスしてしまい、3年目にあの時松本神父さんも誘えばとよかったと悔やまれるところです。神父様にとっても三ヶ月前に医者が病名を告げて助からない命であることを知ったときは、どんなに悔やまれ失望されたことでしょう。管区長、共同宣教司牧、地区長、教区顧問、幼稚園理事長、園長とたくさん仕事を任せられ、たくさん責任を引き受けて、ひとつずつ丁寧にその責務を果たしておられたのです。そして、誰をも責めることなく、皆が居心地のよい場所に留まるように、ご自分のことは二の次にして働き手に徹したのです。

亡くなった年はいつくしみの特別聖年で、絶筆となった「からしだね」3月号巻頭言においては、「神さまのいつくしみ」がしっくりしないので、何とかご自身が納得できることばに噛み砕いて私たちに説明されました。いつくしみをmercy and compassion と訳したあるシスターの通訳を聞いて、納得できたことをです。「神さまのいつくしみは、ただ相手のことを思って優しくするとか、何かを与えることに留まるのではなく、他者の思いや体験、生きている現実を自分のものとして共にすることであると分かります。…神さまのいつくしみはCompassion(共感)がキーワードかもしれませぬ」。このCompassionは、御受難会のカリスマでもあるのです。松本神父さん

は、共感のインスピレーションをご自分の体験に合わせて語りかけておられます。「私たち一人ひとりの抱えている十字架を神さまは共に担ってください、どんな小さな喜びにも一緒に喜んでくださいます。神さまのわたしたちへのいつくしみを思い起こすことが、私たちもいつくしみを持って生きるようになる第一歩だと思います。聖なる扉を通る時、神さまの心がいつも私たちに開かれていることを体験します」。

自分を与えつくすイエスの姿へと自分を開いていく決意がそこにはありました。わたしたちに残して下さった最後の文章は、「そして、私たちが真にいつくしみ深い存在となれますように」です。その願いどおり神父様は永遠のいつくしみ深い存在となりました。

祈り：神父様が、いつくしみ深い存在と一つになって天からの恵み深い雨を降らし私たちの乾いた心を潤し、神父様が惜しみない心で教えた子供たちが豊かに成長しますように。

エピローグ：

翌日の主日のミサでは、マタイの福音13章に始まる天の国のたとえに触発されて、売布の森だよりに掲載された松本神父さんのお父さんのお宝写真を紹介しました。宝塚商工会議所の招待でマザーテレサが講演し、宿泊予定の宝塚ホテルには泊まらなとマザーテレサが断ったので、急遽宝塚黙想の家に宿泊することになりました。ちょうど松本善一さんが宝塚の黙想の家を訪問するために玄関にきたところ、マザーテレサの一行と遭遇。当時9歳だった松本君と玄関で腰掛けているマザーが写真のなかにツーショットで納まりました。松本神父さんの心の扉を開きたいいつくしみ深い存在との出会いの瞬間を写したお宝写真です。洗礼(1980年4月5日7歳)を受けた翌年と思われる松本神父さんの小学校2年生のときの作文には、「神さま、病気の人や体の不自由な人がはやく治ったらいいと思います。僕と姉ちゃんとお母さんのかゆくなる病気がなくなりますように。世界中の人たちの中に苦しみを受けている人たちがいます。その人たちの上に、一日も早くお恵みがありますように。もしこの世に、体の不自由な人が電車に乗っていたら、僕の心の中に、不自由な人に席をゆずる心ができますようにお守りください。それで誰かが僕や他の人々に道を聞いたら、教える心ができますように」・・・すでに共感の心が宿り、人生の苦しみを知った小さな哲人は、生きた聖人、マザーテレサ本人を目撃して天の国の秘密を知る弟子の道を歩むことになりました。アレルヤ。

十字架の聖パウロ松本一宏神父 帰天一周年祈念ミサ



7月15日(土)の17:00から、十字架の聖パウロ松本神父様帰天1周年の祈念ミサが、池田教会聖堂で畠基幸神父様の司式のもとにおこなわれた。松本神父様の数々の写真で周囲を飾られた聖堂は、信徒たちで埋め尽くされた。復活のろうそくが点灯の中で、畠神父様は松本神父様が遺されたものについて語られた。(巻頭言参照)

共同祈願では日生中央教会、中高生、研修委員会、評議会の各代表が祈りを捧げた。

・日生中央教会代表

松本神父様から、洗礼を受けた少年は、はじめ学校に行くことがとても嫌で嫌いでした。でも、それから毎週ミサに来て、侍者奉仕もするようになりました。この最近では、学校と部活を楽しんでいます。彼の人生を大きく変えたあれこれは、松本神父様のさりげない導きの賜物だと思います。松本一宏神父様、ありがとうございます。これからも、ずっとずっと共にいて、導いて下さいますように。

・中高生代表

私たちの大好きな松本神父様が天国に行かれて一年が経ちます。今でもどこかで神父様に会えるような気がしてなりません。どうぞ神父様、天国から私たちのためにお祈りください。私たちが決し

て神父様を忘れることなく、いつも神父様を模範に成長して行けますように。

・中高生代表

松本神父様を慕う全ての人のために祈ります。神父様の突然の帰天に、寂しさと悲しみは未だ消えることはありません。私たちが集まって、神父様の思い出話をする時、そこに神父様はいらっしゃいます。忘れることなく、教えて頂いたことを実践して行けますように。

・研修委員会

松本神父様は、池田教会で洗礼を受けられ司祭の道に進まれました。この教会の若い人が、松本神父様のように、神の呼びかけにこたえて、司祭、修道者への道に進みますように。

・評議会議長

聖マリア幼稚園と池田教会、日生中央教会のために祈ります。松本神父様の教えを受けた私たち一人一人が、神父様の生き方から学んだことを忘れず、松本神父様がたくさん居られるような幼稚園と教会を実現して行けますように。

続いて「追悼の祈り」式が始まり、こどもたちの合奏付きで、テゼ・グロリアグロリアなどが歌われた。祭壇にプロジェクターで在りし日の松本神父様の笑顔の写真が次々と映し出され、皆の涙を誘った。焼香のあと、中学生代表と高校生代表が松本神父様への手紙を読み上げた。



・中学生代表からの松本神父への手紙

僕は松本神父様にお世話になりました。その中でも、中学生になってからの2年間は、本当にお世話になったと思います。

2年前、僕は堅信の勉強を松本神父様にして頂きました。もらったプリントは、見ただけでは全く分からないものでしたが、松本神父様が、笑いを交えながら分かりやすく説明して下さいました。また、

ペン回しが上手という、松本神父様の意外な面を知ることができ、楽しい勉強会でした。

僕と松本神父様は誕生日が5日しか違いませんでした。去年の2月の中高生会で、松本神父様の誕生日会をすることになったのですが、たまたまその日が僕の誕生日だったこともあり、一緒に祝って頂きました。松本神父様の最後の誕生日と一緒に祝って頂き、大切な思い出になりました。

もっと長くこの教会に居て欲しかったのですが、最後に話してから1年3カ月も経ってしまいました。これからも、私たちの近くで私たちを見守って下さい。

・高校生からの松本神父への手紙

神父様。僕が神父様と初めて会ったのはいつのことでしょうか？小学生になる前ぐらいのことであまり覚えていません。小学2年生のキャンプに、男子で一人だけの参加で、神父様にかわいがってもらったのをよく覚えています。しかし小さいころの記憶はあんまりありません。でも今もはっきりとわかることがあります。それは神父様と一緒に写真に写る僕はいつも飛び切りの笑顔だということです。

中学三年生になったくらいの頃、染野神父様が移動されてから月一度の中高生会でまた神父様に会うことが増えました。聖書の話も教えてもらったりしましたが、神父様もやっていたという部活の弓道の話で盛り上がったこともありました。一番の思い出はある月の中高生会。いつもは売布に帰る神父様が僕たちと一緒に泊まってくださったときです。布団をかぶって神父様とみんなでトランプとかをしていました。ずっと神父様は近くの男子とくすぐり合いをしていましたね。このときも神父様はずっとニコニコ笑顔で、一緒にいる僕たちもおなじでした。あの晩は本当に楽しかったです。

そんな神父様がなくなるのは、僕にとってあまりに突然でした。驚きと悲しみで布団の中で大泣きしました。「神さま、なぜなのですか？なんで松本神父様が死んじゃうのですか？神さま、僕は神さまが本当にいるって信じています。だからこそ教えてほしいです。なぜなのですか？」

知らせを受けた翌日のお通夜。神父様のあまりに痩せてしまった姿。病気との苦しい闘いであったことは何も知らない僕でもわかりました。前の日の疑問がまた浮かんできました。「なんで松本神父様がこんなに苦しい目に合うのだろう？」

いまも時々、この疑問が湧いてきます。この春

に、五島列島に巡礼に行ってロザリオの祈りをしていた時もこのことを考えていました。不条理に迫害された切支丹や、十字架につけられたイエス様の苦しみ。もししたら松本神父様の苦しみはこれに似ているのかもしれないと思いました。しかし、今も「なぜだろう」という答えはまだわかりません。

神父様、今ここにいる僕たちは生きています。神父様も一人一人の心の中にいてくれていること

でしょう。神父様がそうされたように、僕たち私たちもみんなを笑顔にすることを目指します。そして、神さまが松本神父様に会わせてくれたこと、あんなにも早く、急にお別れしなければならなかったということ。いつまでもわからないかもしれませんが、神父様にまた会う日までこの二つのことの意味を考え続けます。今日、私たちはこの想いを新たにします。

(寄稿2篇) 帰天一周年祈念ミサに臨んで

なぜだろう？

直

訃報に接したのは通勤電車のなかだった。朝8時頃か。妻から連絡がはいる時間ではなかったから緊張しながら応答したのを覚えている。予感的中。「亡くなったの？」と叫んでしまった。隣に座っていたオジさんが、わたしの顔をのぞき込んでくわいだから大きな声だったろう。

あの朝とおなじように暑い毎日が繰り返される季節がめぐってきた。一年が経ってしまったが、あい変わらず今もわたしは「なぜ？」と考え込むことがある。追悼ミサで侍者のK君が読んでくれたメッセージにあったとおり。老境に入ったわたし自身の気持も代弁してくれた。池田教会の生え抜きでお人柄もよく、多くの信者に愛された松本神父。ある日突然いなくなるとは…

理不尽に見えるできごと、予想もしなかった不幸や悲しみと直面したとき、わたしたちは「神さまにはわれわれの知恵では理解できない考えがあたりだ」とつぶやく。聖書でなんども繰り返されることを思えば、いつの時代の人も同じ思いだったのじゃないか。情けないことに、その言葉を素直には受け入れられない自分に気づいてしまう。空しい呪文じゃないかと。それ以上は考えないことにしている。弱い信仰なのだろう。だがそれだからこそ、余計に教会を、ミサを大切にしようとは考える。松本さん、わたしの成長を見守ってください。

松本神父様の追悼ミサへの思い

延

松本神父様が共同司牧者として池田教会へ赴任してこられ、祭壇から笑顔で挨拶なさったとき、期せずして熱烈な拍手が巻き起こりました。お帰りなさい、これから池田教会のリーダーとしてお願いします、と。それからの松本神父様の働きはすばらしく、子供たちはたちまちなつき、大人たちは癒やされました。ご自分の悩みもきつとおありだったでしょうが、それは笑顔の下に押し隠し、十字架上のイエスに生涯を捧げる道を貫かれようとしたのでした。

松本神父様が突然、主に召されたとき、残された信者たちは、池田教会の未来にかけりができたようにすら感じました。それからはや一年が過ぎました。池田教会は今、しっかりと歩み続けています。子供たちもめざましい成長を遂げています。問題は山積していますが、松本神父様がこの世を去られても池田教会は揺るがなかったのですから、これからも困難な時代を乗り越えていけると確信しています。松本神父様、短く濃い時間をありがとうございました。



…理解と共感を示す

「ラウダート・シの読み合わせ会」がスタート

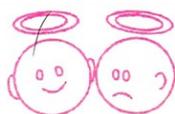
教皇フランシスコは2015年5月24日聖霊降臨の主日に第2の回勅「ラウダート・シ」(副題:ともに暮らす家を大切に)を発せられました。その英語版が環境倫理の研究者であり、司祭でもある瀬本正之氏(上智大学)らによって邦訳され、中央協議会から出版されました(2016年6月)。邦訳が出版される前から、ミサの説教で幾度も取り上げて居られた畠神父が待ち望んでおられた「読み合わせ会」の第1回(7月1日)が開かれました。

その序論に相当する部分(12ページ)の読み合わせを行ったのですが、「環境破壊をもたらしたのは、神から賜ったよきものを人間が無責任に使用したり濫用したりすることによって生じた傷の故に、わたしたち(人間)は自らを、地球を欲しいままにしてもよい支配者や所有者とみなしたため」と記されています。更に、「わたしたちの世界を守り改善するいかなる努力も『ライフスタイルや生産と消費のモデル、そして今の社会を支配している既成の権力構造』に大きな変化を伴うものです」との聖ヨハネ・パウロ二世の言葉を引用しています。

同じ懸念に結ばれたギリシャ正教のヴァレソメオス総主教の言動や聖フランシスコの想いもつかない行動を挙げた後に、フランシスコ教皇は本回勅で「皆が共に暮らす家を保護することはわたしたちが人類家族全体を一つにし、持続可能で全人的な発展を目指すことに繋がります。このために、各々自身の文化と経験、自発性や才能に応じた具体的な行動とそれぞれの間の対話を通して、人類は新しい普遍的な連帯を必要としている」と記しています。なんと力強い具体的な宣言でしょう!

「これらの指摘は、キリスト教の福音と教義に合致し、キリスト教を信仰するものはこの回勅を理解する」という畠神父と一人の信徒のコメントに「そうなるのか!？」とその他の信徒は次回以降(7/29、8/19、9/9、…いずれも土曜日の13:30より)の第一章からの読み合わせ会が楽しみになります。

「ラウダート・シの読み合わせ会」世話人



…山も谷も経験している

大腸ガンの手術を受けて(下)

されじお大山

余り気乗りのしなかった抗がん剤治療を受ける気になったのは十字架の聖パウロの教えです。聖人は前の原稿(中)で述べた以外に、次のように言っておられます。

『10月24日 医師に従順でありなさい。そうすれば、たとえすぐ良くななくても、少なくとも、神の御前であなたの責任を果たしたことになります。』
(「今日を生きる知恵のことば」 ドン・ボスコ社)。

このことばに素直に従えるようになったのは、かなり厳しい試練の後なのです。私は、生涯2度入院しましたが、それによる苦痛はほとんどありませんでした。

その代わり、歯痛が病気に関する、私の最も重い十字架でした。上は総入れ歯、下も半分以上、部分入れ歯。「歯なんぞの病気で、死ぬことはないわ」と家内。しかし、その痛みの甚だしさは、今回の「大手術」以上。七転八倒しました。

30年も前からです。適当な歯科医がみつからず、数人の司祭にも相談しました。「数件の医師にあたってみて、気に入ったところに通えばどう」と言われましたが、風邪とか内臓の病気なら、それでよいのですが、歯の場合は、削られたりするので、ある程度の治療のめどが立つまで、医師を変えることが難しい。

そこで聖人たちの著書に指針を求めました。聖アルフォンソ・リゴリオをかなり読み込んで、結局、次の言葉が自分には最も良い指針としました。

「かみのみむね」(御受難修道女会訳 昭和39年発行)より。

「私たちが病気の時とるべき、最も優れた態度は、病気も健康も願わず、ただ神のみ旨に全くゆだねること。『主よ、み旨が行なわれますように』百回も、千回も、常に、これを繰り返そう」。

聖人は通常の治療を受けるのを、禁じているわけではありません。むしろ逆です。ただ、なかなか治らないときの心構えを教えておられるのです。実際、なかなか治らない病気というものを、しばしば経験します。この場合、驚くべきは、聖人は、病気が治ることを願わず、み旨の時まで忍耐できるよう、祈り求めるよう勧めておられるのです。

この点、私は、お祈りしてすぐに治して下さるようお願いするので、受け入れるのが困難でした。でも聖人は教えておられます。「こうすれば今までの罪が許され、死に至るまで霊的なお恵みを豊かに頂いて、良き死を全うできる。現世の健康は、はかなくて一時的。死後の永遠の幸せをも踏まえて、広い視野からものを見なさい」と。

立派な理論ですので、歯痛に苦しむときに実行してみました。抜歯後のずきずきと痛むとき、「主よ、み旨が行なわれますように」と、目を閉じ、眉をひそめて何度かつぶやきました。頭の方は聖人の教えに従おうと思っているのですが、体から強い反発が湧き上がってくる。「痛いのは絶対イヤ、イヤ、イヤ。今すぐ楽になりたい」。使徒聖パウロが、自分の心は2つの領域がある、といわれましたが、こんなことを言っているのでしょうか。まあ、いつの間にか痛みが治まり、神様のみ旨の忍耐の時期が終わったのでしょうか。聖アルフォンソ先生の教えは、困難だが、仕方なしであっても受け入れるべきだと、骨身に染みしました。

とはいえ、体の訴える痛みを和らげるために、教会の与えて下さる秘跡は、機会ある限り必ず受けています。キリスト様も、病者の塗油の秘跡を定め、また福音書で病者に深く同情して、癒しの奇跡を行われました。何よりミサ聖祭。これこそ現世と来世で、また靈魂と肉体のために最も貴重な人間に与えられた宝ではないでしょうか。

さて今一つ、十字架の聖パウロの教えられる「医師に従順であれ。処置を拒んではならない」が身に染みしたのは、次の経験です。

やっと選んだ歯科医に入れ歯を作ってもらうことになりました。医師は言う。「上の奥歯を抜く」。私は仰天しました。その歯は全く健全でした。「これを残して入れ歯を作って欲しい」。私があまり言い張るので、医師はその通りに作ってくれました。何と数ヶ月後に、痛くて痛くて……またその歯を抜いて作り直してもらうことになりました。「素人が口を出すのは賢しら」。

勿論、医師の決定に断固反対すべき時があるのも確かです。神様のみ旨に完全に反する治療が勧められた時です。でも、そんな場合は少なく、大抵は医師に従った方がみ旨に適うと思います。

イヤだった抗がん剤の治療を受ける気になった

のは、以上の経験からです。医師が暗に勧められたからです。また抗がん剤治療は、かなり患者の意見を聞いてくれます。「少しでも体調が悪くなれば主治医に遠慮無く申し出て下さい。薬の減少、期間短縮、自宅で気分が悪ければ、救急車で来て下さい。いつでも受け入れます」などの注意書きがありました。

とはいえこの治療、何とも言えない陰湿な苦しみがあります。胸、腹などが重苦しく、爪と肌の境目や顔のあざやシミが異常に黒む。出来れば避けたい！

入院前、神さまのお恵みを受けるために、十分な準備をしました。畠神父様から畳の小聖堂で、ミサの後、病者の塗油の秘跡を受けました。自分ではこれで十分と思ったのですが、手術前に家内がまた頼んでくれて、病院で畠神父様から、また塗油の秘跡と、そしてデイルームでミサを捧げて貰いました。

この結果、大きなお恵みを頂きました。私にとっては、奇跡のように思われます。

大腸の内視鏡検査をする際、腸閉塞で下剤が効かず、検査を一日送らせる事態になりそうでした。そうなれば手術なども遅れてしまいます。

さて担当の医師が回診に来られました。ベッドに寝ている私を見るなり「おお、良いお守りをしていますね」。お守りというのは、シャツの外に見えていたスカプラリオでした。「私カトリックなんです」と、やや恥ずかしそうに言うと、医師は「私の母もカトリックです。私も学校で聖書を勉強しました」。

夕方近くになって、浣腸が効いて排泄がありました。その医師は、夜遅くなるにもかかわらず、検査をしてくれたのです。その結果、手術まで待たされる期日が少なくなりました。

また19日間の入院中、日曜日が3回ありました。真ん中の日曜日は、手術の真っ最中で、外出は不可能。初めと最後は池田教会まで、歩いてミサに行けそうでした。外出には、医師の許可が必要。当直の医師は朝9時にしか出勤しません。そうなれば許可を貰っても、ミサに遅れてしまいます。ところが初めの日曜日は、たまたま医師が8時30分に出勤、しかも私のスカプラリオを見つけてくれた方でした。喜んで許可をくれました。3度目の日曜は、別の医師でしたが、何故だか、この方も

早めに出勤、許可をくれました。

松本一宏神父様には、特別の親しみを覚えるようになりまして。聖堂左側に安置されている神父様の遺骨に、あるお願いのため、しばしば訪問いたしました。しかし私が手術をして後、神父様もがんで死去されたことを思い出しました。「そうだ、同病相憐れむ。神父様は、抗がん剤で苦しむ私のことを、最もよく理解して下さい」。神父様への訪問が、さらに頻繁になり、祈りにも一入打ち込めました。

「こんなプライベートな手記を公表していいの」とある奥さんが申しました。「もうすぐ死ぬのだからいいんですよ」と私。

病院の医師やスタッフの態度、そして家族親戚の態度からして、自分の死のことも思いました。「地獄なんて余りに恐ろしく、自分には当事者能力がない」と勝手に判断しています(神さまに叱られるかもしれませんが……でもカテキズムに書いてあるとおり、存在は確信しています)。煉獄については、当事者能力は十分すぎるほどあります。いつも高慢心が心の底から湧きだし、他人を悪く思ったり軽蔑する癖が、全く直っていません。金持ちとラザロのたとえ話にあるように、この世で無事平穏に過ごし、良いことも悪いこともしなかった場合でさえ、煉獄の火に入れられる恐れがあるそうです。罪深い私など、その劫火に悶え苦しむ可能性が大です。「償いのため、何か積極的な善を行わなくては…」

さて、がんで死亡する人は、日本人男子の3分の1もいるそうです。実は、76歳に至るまで「がん」について、十分な知識がありませんでした。健全な常識の欠如!

「こんな人、他にもいそうだ。そうだ、自分の事

実をありのまま伝えてみよう」

新聞社に40年も勤めていましたので「面白いこと役に立つことを伝えること」は、職業的本能として心にこびり付いています。「こうすることによってキリスト様に見えるとき、少しでも罪の赦しをいただき、煉獄の劫火を免れたい」。

かく感じて発表させて頂きましたら、一部の人々から共感を得ました。

ある方から高級な日本酒を頂きました。飲みにくい抗がん剤を、美味しい酒と一緒に流し込みます。ある人から舶来のコーヒーを。また私のためにミサに与ってくれました。その他お菓子も沢山。ルルドの水をくれた人も。いつも少し口に含んで聖ベルナデッタに癒しを祈っています。

またある人からは次のような句を頂きました。

『春雨や 病も癒えて ミサすすがし』
(夢のまた夢かな)

今回の手記の発表で、私はかなり満足しました。いえ、人々から物を貰ったからではありません。もちろん、それはありがたいことです。しかし、物を貰ったことによって、この行為、少しは神さまのお気に召したのかな、と感じられたことです。人々に喜ばれても、神さまのお気に召さなければ、意味がないですね。

今後は、病気がひどくなって、日常生活が出来ない。苦しさに七転八倒する事態なるかも知れません。そんな時、聖アルフォンソの教えに従うことが出来ればいいな、願っています。「主よ、み旨が行なわれますように」と、百回も千回も祈り続けることです。

(完)

8月～9月のガラスケースのことば

神は、高慢な者を敵とし、謙遜な者には恵みをお与えになる

ー ペトロ 5・5

兄弟愛をもって互いに愛し、尊敬をもって互いに相手を優れた者と思いなさい

ローマ 12・10

今月の表紙写真

－ 白山高山植物園の花々－

白い雪を頂いた白山を背景に、黄色やピンクの高山の花々が一面に咲いているパンフレットの写真を見て、ぜひ行ってみたい！と思った。高い山に登らなくても花を見ることができらしい。考えて見れば、登山という楽しみが普及するまで、長年の間、日本の高山で夏に可憐な花が咲き乱れてははばんでいくのを、誰も知らなかったのだ。まさに神が創造されたままの世界。マタイ福音書のおなじみの聖句、「神は野の草でさえ、このように装ってくださる」を思い起こす。ところが現地へ行ってみると、意外な話が待っていた。

去年は過去百年でいちばん平均気温が高かった。さらに今後百年の間には平均気温が1度から4度は上昇すると言われている。人がもたらしたとされる地球温暖化。白山は2800メートルほどの比較的低い山なので、平均気温が1度上昇するだけで、下から強い植物が這い上がり、白山の高山植物の多くは絶滅するのだそうだ。白山固有種を含む高山植物をなんとか今のうちに見本として残そうと、NPO法人が800メートルほどの低山に高山植物の種を蒔いた。20年に及ぶさまざまな試行錯誤の末、美しく花が咲くようになり、そこは1年のうち1ヶ月間だけ、白山高山植物園として一般公開している場所だった。

神の御手で造られた小さなかわいい花々が、生活を快適にしたい人間のあくなき欲望で消えていくのは、なんともせつない。回勅「ラウダート・シ」のメッセージが身にしみた一日となった。

広報委員

「大人の日曜学校」だより

6月25日も8名の参加で、今日のミサの福音（マタイ10・26 - 33）を読み、ここに響いた言葉を分かちあった。

（雀）一羽さえ、あなたがたの父のお許しがなければ、地に落ちることはない。あなたがたの髪の毛までも一本残らずかぞえられている。だから、恐れるな。

多くの人がこの箇所を選んだ。神様がなんでも私たちのことをご存知のは当たり前なのにそのことを忘れ、いろいろなことを心配し、恐れにとらわれてしまう。詩編にもたしかこういうことが書かれていたのでは？と参加者の一人がいったが、みんなそうそういいながらプロテスタントの方たちのようにさつとそこが見つけられない。（もつとみことばを蓄えとかなければと反省する）

今日の福音では、くりかえし「恐れるな」とわたしたちに語られる。せめてこの一週間この言葉を忘れないように過ごしたい。

主よ、あなたは私の心を調べ、わたしを知り尽くしておられる。あなたは私が座るのも立つのも知り、遠くからでも、私の思いを見通される。

詩編139

研修委員会

祇園会や稚児のひとりば伏し目がち

若沖も栖鳳も行く鉾祭



テレジア

ミニ解説

伊藤若沖は、江戸時代の京都の画家。長刀鉾（なぎなたほこ）の後ろ飾り幕（見送り、という）が若沖の「旭日鳳凰図」をもとに二〇一六年に新調された。孟宗山の見送りには明治から昭和にかけての日本画の大家で、京都ゆかりの竹内栖鳳（せいほう）作、「孟宗竹林図」が織り込まれている。以上を踏まえて右の佳句をご鑑賞ください。

（広報委員）

「高齢者のつどい」のお知らせ

9月17日の主日のミサで高齢者の祝福があります。また、ミサ後には茶話会があります。

皆さんご参加ください。お待ちしております。

宝塚・その他地区担当

教会カレンダーへの追加と変更

8月の教会カレンダー

8/5(土) ワックス掛け(9時～15時)、聖堂内予定表にお名前の記入を！

8/18(金) 3日間、小中生と青年の練成会がアサンプション国際で開催。

8/19(土) 「ラウダート・シの読み合わせ会」は13:30～15:30に開催。

8/26(土) アルファ・コース合同同窓会、10時より。

8/27(日) 大人の日曜学校(9月は休み)。

9月の教会カレンダー

9/3(日) 池田教会において、北摂地区青少年委員会主催の中高校生交流会。堅信の秘跡に与る方は参加するよう。

9/9(土)(変更) 中高生のお泊まり会は9/16(土)へ変更。(11/11(土)も11/18(土)へ変更)

9/9(土) 「ラウダート・シの読み合わせ会」は13:30～15:30に開催。

9/17(日) 主日ミサに高齢者の祝福があり、ミサ後に敬老の集い(茶話会)。

宝塚黙想の家から黙想会のお知らせ

■日帰り黙想会

8月はお休み。

9月21日(木) 10:00～15:30

9月22日(金) 10:00～15:30

指導: 山内十束神父

■週末黙想会

8月はお休み。

9月23日(土) 17:00～9月24日(日) 15:30

指導: 山内十束神父

各黙想会、費用等のお問い合わせは「宝塚黙想の家」まで。 ☎0797(84)3111



編集後記

5月から始まった中村神父様の聖書クラスに参加しています。

「初めに言(ことば)ありき」で始まるヨハネ福音書を読んでいます。最初の日に参加者の一人が、「この言葉って、もちろん私たちが話している言葉と違うんですね？ いったいどんな言葉なのでしょう？」と質問されました。私は思わず頷きました。14節の「そして言(ことば)は肉体となり、私たちのうちに宿った」というところはもっと不可解です。新約聖書は何度も読んでいはずなのに、とがっかりしました。自分ではわかったような気になっているだけで本当は何もわかっていないのではないかと、不安になりました。

そんな時グイノ神父様の「ヤナギの枝で編んだ籠」(からしだね7月号掲載)を読みました。その中で、お祖父さんは孫にこんな風に言います。「聖書を読む時にも同じ事が起こっています。君が理解してもいなくても、内容をおぼえていてもいなくても、聖書を読み、黙想するたびに君が知らない間に、君の魂がとても美しくなっています。確かな事は、君の魂は必ず変化します。」この言葉は自信をなくしていた私を励まし、勇気を与えてくれました。やめようかなと思った聖書クラスですが、今はもう少し続けてみようと思っています。

とんとんみー